

梅窓院通信

No.125

2023/06/01

青山



住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

桜花がまだ残る四月六日(木)。晴天に恵まれる中、浄土宗大本山増上寺の御忌大会、日中法要の唱導師を勤めさせて頂きました。梅窓院の檀信徒様はもちろん、倉常寺や当院に奉職している僧侶のお寺の檀信徒の皆様にもご参拝頂き、またお稚児さんでも檀信徒様に多大なご協力を頂きました。紙面からですが、心より御礼申し上げます。

とはいえ、コロナがまだ第五類になる前で、ご参拝を見合わせられた方もいらっしゃるかと思います。そこで、今号は十二ページに増ページして御忌の特集を組みました。紙面にて中島家三代で続けられた唱導師という大役の様子をご覧頂ければ幸いに存じます。さて、年に四回、お手元にお届けしているアユスの「季節の葉」ですが、その発行元であるアユス仏教国際協力ネットワークから特別功労賞を頂きました。長年に亘る協力が受賞理由とのこと、ありがとうございました。くお受けさせて頂きました。

アユスは浄土宗僧侶が中心になって三十年前に設立されたNGOで、世界の苦しむ人々を支援する活動を地道に続けている宗教関係者を中心に構成された団体です。理念や理想は掲げてもなかなか行動に移せないことが多い中、有言実行の活動的な団体で、梅窓院も微力ながら設立以来、応援させて頂いています。最後に春彼岸ですが、コロナ禍で中止していた法要前の寄席と郡上八幡の物産展を四年ぶりに開催しました。寄席では立川小談志師匠に高座にあがって頂きました。

久しぶりの落語と名産品の販売もあり、多くの方々に春彼岸会の法要にご参拝を頂きました。コロナ以前の活気が戻ったようで、充実した春彼岸になりました。

郷愁の盆供養

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

年

をとるとなにかと気弱く、心細くなり、とかくいらざる憂鬱に陥り、ふさぎこみがちになつてしまふ。「年には勝てない」の言葉どおり、どうにか気力はあつても、体力の衰えはまことにどうしようもない。そんな時折、郷愁ということ、ノスタルジーの思いがひとしお強くなるのは、ひとり、私だけのことではあるまい。

郷愁という語は、ふるさとをなつかしむ気持ちと、過ぎし日、過ぎ去りし事柄をなつかしむ思いの二つの意味があるとされている。愁という字は、心が引き締まつて憂える心であるというが、文字づらから見れば「秋の心」である。ところでお盆は陰曆七月の行事で、俳句の世界では秋、初秋の季語となつている。そこで今回は表題のごとく、ふるさとをなつかしむ、遠く過ぎ去つた月日、出来事をなつかしみなながら、お盆供養の尊くうるわしい日本文化の伝統について、改めて思いを馳せたい。

(水芭)

迎火やほそき苧殻を折るひびき

老の手にほきほき折るる苧殻の火 (夜半)

魂迎え・精霊迎えに門火・苧殻火を門前や戸口で焚いて、家族揃つて心をひとつにして祈り合う。渡辺水芭

も後藤夜半も、苧殻が折れる音に心を寄せている。私も子供の頃、魂待つ思いのなんたるかをあまり知りもせず、苧殻を折つて迎え火を焚いたことがある。家の者の元氣な顔が火に映えていたことである。

瓜の馬脚の一つの地に著かず (武弘) 魂棚の前に飯喰う子供かな (鳴雪)

茄子の馬・瓜の牛、あるいは茄子の牛・瓜の馬、私が育つた地方では胡瓜が馬で茄子が牛であつた。仏さまが速い馬に乗つて早く帰つて来て、遅い牛に乗つてゆっくり去つて行かれるようにとの思いからである。塩見武弘の句のような一景は私の思い出にもあり、内藤鳴雪の句のように、私も仏さまと一緒に夕食を食べたことがある。

送り火のすゞろに消えてゆきにけり (淡路女) 流燈のひとつに父と母の霊 (波津女)

高橋淡路女と山口波津女の両句とも、魂送り、精霊流しのかなしみ、せつなさが染み入るように聞こえてくる。私には精霊舟・燈籠舟の流燈会の経験はないが、送り火を焚いて魂送りをいたし、盆供流しの送り盆のなら

わしは体験している。子供心になにかを失つたようなものさびしい思いをしたことも、はつきりと覚えている。

ひとり来てお盆の過ぎし墓を掃く 盆すぎて一人づつ去る母の家 (敏郎)

清崎敏郎は盆過ぎの墓参り、そして墓掃除、大沢ひろしは母一人住む生家のお盆後の景。やはりせつなさ、わびしさに胸迫られてしみじみとしてしまふ。

そうして私は心を転じて、子供の頃の盆踊りの思い出を辿つてみる。ひとりづつ灯を浴びてゆく踊かな (慧子)

佐久間慧子の一句に、私は今、浴衣姿の遠い昔の幼馴染みの姿を思い浮かべる。

ふるさと盆のなつかしき。はるかに過ぎた遠いあの日、共に在りしあの顔あの声は、今はない。眼前に浮かぶ笑顔、耳底に残る声音は、ほのかにかすかに、すでにむなし。こみあげるせつなさに、胸張り裂けんばかりの思いを重ねて、今年のお盆供養は郷心をもつて謹み敬つていたしたい。(大正大学名誉教授)

三月・四月の

行事報告



増上寺御忌大会 4月4日(火) 詠唱奉納大会



春彼岸法要とペット慰霊法要には多くの方がお参りされました。



花まつりで飾られる花御堂

はなまつり 4月2日(日)~8日(土)



4年ぶりの郡上八幡物産展は大変な賑わいを見せました。



寄席では立川小談志師匠が来場者を笑顔にしてくださいました!

令和五年春彼岸法要 3月21日(火・祝)

お盆 7月13日(木)

盂蘭盆会法要 午前10時30分～ 祖師堂

- 法要終了後にお塔婆をお渡し致します。
- 場所や内容が変更となる可能性がございます。
- 会場内は空調の微調整が難しいため、上着などをお持ち下さい。

法要に参加される皆様へ

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられました。梅窓院では今後も換気を徹底し、安全にお参り頂けるよう心掛けていきます。マスク着用については個人の判断に委ねさせていただきますので、宜しくお願い致します。

お たな ぎょう

御棚経

7月13日(木)～15日(土)

お盆とは

お正月とお盆は日本の年間行事の中でも双璧となる伝統行事です。お正月は1月だけですが、お盆は7月と8月に分かれ、東京で7月盆を迎え、8月盆には故郷に戻る方も多でしょう。ご先祖様をお迎えする大切な仏教行事のひとつです。

御棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。
また、不明な点がございましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい。

盂蘭盆会 塔婆・回向のお申し込み方法とお知らせ

◆盂蘭盆会 塔婆・回向お申し込み方法

| | |
|----------|---------------|
| 塔婆回向 1 本 | 10,000円 |
| 御回向料 1 霊 | 5,000円 |

お申し込み方法

同封はがきにご記入の上、7月1日(土)必着でお申込下さい。
はがきの書き方は同封の「書き方例」をご参照下さい。

お支払い方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付まで
お持ち下さい。銀行・コンビニでのお支払いはできません。
ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせ下さい。

お盆に寄せて ～明るい未来の話 パートⅢ～

夏の日差しが眩しい季節になりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、前号の青山に引き続き、自分のお葬儀のとき『明るい未来』という曲で送られたいと願って亡くなった十九歳の少女の話です。「あっちでも仲良くやろう」という歌詞を家族や友人に託して明るい未来を願った彼女。私はなんと浄土宗的な生き方であるのかと感心しました。この世で大切な人と別れてしまっても来世でまた会えることを信じ、明るく生きていくというのが私なりの浄土宗らしい生き方であろうかと思うからです。

明るく生きるということは仏教的な生き方ともいえます。明るく生きるという事は「明るく」生きていただくように。仏様に帰依し、法(教え)に帰依し、僧(信仰の仲間)に帰依することが仏教に帰依することとイコールでありませんが、これを分かりやすく表現されたのが、椎尾弁匡台下(増上寺八十二世住職)です。仏様に帰依することを明るく(仏様は迷いを断った人だから一番明るい)・法に帰依することを正しく(仏様の教えを正しく受け止め正しく実践する)・僧に帰依することを仲よく(仲間を大切にするとお示しく下さいました。明るく・正しく・仲よく生きていくのが仏教徒の生き方といえます)。

ではなぜ浄土宗の皆様は特に「明るく」生きていただきたいかと申しますと、私なりの考えですが、私達の信じる阿弥陀様という仏様はインドの言葉で「無限の命と光」を意味するお名前を持った仏様です。時間も空間も超越したみ光であらゆる世界を照らして、生きとし生けるものをお救いくださいます。抛り所とする『無量寿経』というお経典にも阿弥陀様の別名に饑王光仏(光の輝きが第一であるほのおの王の仏様)とあることから、阿弥陀様はガンジス河の砂の数ほど多いらっしゃる仏様の中で一番明るい仏様ではないでしょうか。そして、私達はそんな一番明るい仏様のみ光に照らされ、この世で命が終われば一番明るいお浄土にお生まれするのです。だからこそ、浄土宗の皆様にはどのような環境にあっても、このことを心の片隅において、明るくお過ごしただければ幸いです。

盂蘭盆会の法要で皆様とお念仏をお称えでき、お盆を楽しく過ごしてまいります。合掌
(副住職 中島真紹)

浄土宗大本山増上寺

御忌大会

静譽真成唱導師

日中法要嚴修

令和五年四月六日、浄土宗大本山増上寺御忌大会の日中法要唱導師を、

梅窓院中島真成住職が勤めました。『青山』紙面にてこの模様をお伝え致します。

なお、檀信徒の皆様にご協力をご頂きましたことを心より感謝申し上げます。





まだ桜が残る令和五年四月六日に梅窓院中島真成住職が、浄土宗大本山増上寺の一年で最も荘厳な行事の御忌大会で唱導師を勤めました。

御忌とは浄土宗を開かれた法然上人の年忌法要のことで、浄土宗の総大本山で厳修され、選ばれた僧侶が総大本山の門主や法主の代わりに導師となり、法然上人への報恩謝徳の念を伝える浄土宗が最も大切にする行事です。

そして、増上寺の御忌大会では、他本山にはない、お練り行列と庭儀式が行われます。三門をくぐり（下の写真）、大殿の前庭で洒水作法（上の写真）をします。洒水作法はこれから法要を執り行う大殿と境内全体を清める作法で、左右を僧侶に、後方から親戚のお寺と家族に見守られながら、唱導師が厳かに勤めます。



増上寺公式YouTube

当日の模様（動画）がこのQRコードでご覧いただけます。

③



①



②



⑤



④

⑥



⑦



御忌大会の朝、唱導師は台下に拜謁、唱導師を勤めたことで就ける役職を任命されます(写真①②)。そして、お練り行列のために、かつの増上寺の境内入り口だった大門の脇にある寺院・浄運院で着替え、ご本尊に参拝し(写真③④)、お練りへ向かいます。

お練りは片側車線を交通規制し、お稚児さん・木遣など二百人以上が参加して全長百メートルを超える、見応え十分な長い行列となります。その行列中の唱導師・大傘を撮影したのが、⑤の写真です。

大殿に入るといよいよ法要が始まります。入堂すると増上寺の法主から唱導師に法子を授与されます(写真⑥)。高座に着座して洒水(左ページ写真)に続き、歎徳疏(たんどくしよ)といって、法然上人を讃える読み物になります(写真⑦)。御忌は法然上人の年忌法要ですので、この読み物が唱導師の見せ場、聴かせ所になります。

その後、皆様のご存じの法然上人のご遺訓「一枚起請文(いまいきしょうもん)」に続き、この日ならではの念仏が称えられます。





この見開きページは散華行道さんけきやうどうといい、散華さんけとは仏を供養する作法で、増上寺では天井から散華（仏を供養する花の見立てた紙製の花卉）が撒かれるなど見どころの一つです。行道やうどうとは仏のまわり（裏堂があれば裏堂へ。裏堂のない時は本尊と前机の間）をまわることで仏を讃嘆さんたん、供養する作法です。

こうして約一時間半の法要が厳かな中に執り行われ、唱導師は退堂します。大殿二階の廊下で、ご随喜ずいき頂いたご僧侶に唱導師からお礼の言葉を述べ、記念撮影を三回撮り、朝からの増上寺での法要と各種行事が終了しました。

続いて、記念の宴席を増上寺隣の東京プリンスホテルに設け、増上寺の法主をはじめ、諸役をお勤め頂いた役職者、そしてご随喜頂いたご僧侶方、ご参列頂いた皆様へ、唱導師としてのお礼の謝辞を述べ、長い一日が終わりました。

この御忌法要は、参拝者の皆様、可愛いお稚児様たち、随喜寺院の皆様、そして準備段階からご協力頂いた多くの皆様のお力添えあつての円成でした。紙面からですが、篤く篤く御礼申し上げます。



梅窓院を囲む日々

梅窓院仏教講座講師・
浄土宗東京教区城西組組長・
浄土寺住職

阿川正貫(あがわしんごく)先生

梅窓院の仏教講座講師シリーズの2回目は、赤坂の一ツ木通りにある浄土寺住職の阿川正貫先生にご登場頂きます。阿川先生はお話にも、ご自身の中国留学の経験を織り交ぜられるなど、わかりやすいと評判の先生です。

◆平成17年10月19日から先生の講義がはじまりました。この依頼を受けられた時のことを覚えていらっしゃいますか。

阿川正貫先生(以下阿川) はい、もちろんです。一般的な法話の会ではなくカルチャー的な講座を企画されるということで、さすが梅窓院様、ご本山クラスの意欲的な取り組みだと思いました、お世辞でなく。学術的なことを檀信徒・一般の方向けにお話しするのは、大学の授業とはまた少し違う取り組みが必要だろうと、面白みを感じたように覚えています。

◆先生から提案されたテーマは「中国の名寺・名山」でした。このテーマを選ばれた理由をお聞かせ下さい。

阿川 やはり檀信徒・一般の方向けということを意識し、専門の中国仏教の中から話題を選ぶとしても、とっつきやすいテーマ、仏教史上の著名人や大事件、仏教とかかわりのある中国の名勝やお寺、そして浄土教に関する事など、なるべく身近な話題を選び、「深く」よりは「広く」を心がけてお話しするつもりでテーマを選びました。

◆なるほど、聞き手にわかりやすいテーマを選んで下さったんですね。

実際に講義で心がけていることはどんなことでしょうか。

阿川 幅広く色々なお話をするようにしていますので、仏教だけではなく、有名な漢詩や日本古典、あるいは個人的な中国旅行の際の思い出など、その時のテーマにまつわることをお話しすることを心掛けています。

あとはゆっくりはっきり、大きな声でお話すること。若いころから中学高校で授業をしておりましたので、それは出来ているかと思います(笑)。



一ツ木通りに入ると都会の喧騒を忘れ四季折々の自然を感じられるお寺です。



港区指定文化財の銅造地藏菩薩坐像にて

◆最後に先生の仏教講座のアピールをお願いしますか。

阿川 私以外の先生方は皆、それぞれの分野の権威でいらっしゃいます。そのお話を、菩提寺で受講料なしで聴けるというのは素晴らしいことと思います。

最初にも申し上げましたが、ご本山がなさるような講座なのです。そして一話完結のお話が多いようですので、どうぞ梅窓院の檀信徒の皆様にはもちろん一般の方も、ご遠慮なく今からでもご参加下さい。

私の講座のアピールにはなりませんでしたが、仏教講座の魅力をお伝えさせて頂きました。



プロフィール

昭和33(1958)年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒、大正大学博士課程満期退学。文学修士(仏教学専攻)。中国浄土教史、中国の仏教儀礼などを研究。芝学園国語科講師、淑徳短期大学講師を経て、現在大正大学講師。浄土宗浄土寺住職、浄土宗東京教区城西組組長。趣味は歌舞伎や落語鑑賞、ラグビー観戦、神宮球場での大学野球観戦など。



ルメルシマン

オカモト

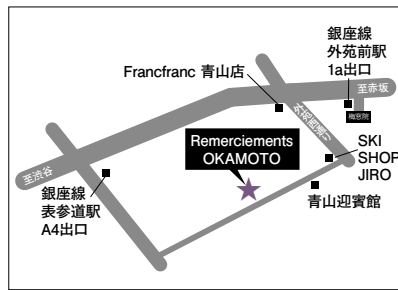
Remerciements OKAMOTO

今回は梅窓院より徒歩6分、フレンチレストラン

「Remerciements OKAMOTO」をご紹介します。

オーナーの岡本英樹シェフは長年国内外のフレンチの名店での修業を経て、2012年にこのお店をオープン。店名の「ルメルシマン」は感謝の意、「料理を通じて一人でも多くの人を幸せにしたい。食で繋がるすべての皆様に感謝」の想いが込められています。

顔の見える生産者との繋がりを大切にしているシェフ自身が惚れ込んだ地元・北海道の厳選された食材に、ソースの神様、「シェ・イノ」の井上旭氏に仕込まれたこだわりのソースを絶妙にあわせた円熟したフレンチを楽しむことができます。



営業時間／
ランチ 11:30～15:30 (L.O.13:30)
ディナー 18:00～23:00 (L.O.20:30)

定休日／月曜日
※最新情報は店舗まで直接お問い合わせ下さい。

住所／東京都港区南青山3-6-7
b-town1F
TEL／03-6804-6703



シックで落ち着いた雰囲気の店内、絵画は全て佐野ぬい先生の作品。



北海道の大地の恵みをふんだんに使用したランチコース。(税込6,050円)

シェフの妥協をしないプロフェッショナルな姿勢こそ、一度訪れたらファンになること間違いなし。フレンチ好きの期待に応えてくれるお店と言えるでしょう。

墓参帰りや法要後は是非お立ち寄り下さい。

孟蘭盆会・荷葉飯

食は命

武鈴子 食養研究家

第九十一回

年中行事の行事食は、新年のおせち、ひな祭りのちらし寿司、端午のちまきなどありますが、お盆は精進料理でしょうか。

奈良時代には宮中行事として、孟蘭盆会のための行事食に、蓮の葉で飯を包んだ「荷葉飯」が命じられていました。江戸時代の宮中でも「蓮の御膳」が供されていて、小芋や生姜、青豆やアワビなど十種の具材を一品ずつ蓮の葉で包んだものでした。市民の間では、一般には混ぜご飯をハスの葉で包んだようです。(「年中行事百科」)

孟蘭盆会に食べられた「荷葉飯」について『今朝食鑑』には、「これは新しい荷葉(蓮の葉)に飯を包み、よく蒸して食べるもので、お腹を寛げ、脾胃を強くし、消化吸収、排泄の働きをよくし、生気を助ける」と記されています。

蓮は、花・葉・根・実にいたるまですべて薬効高い食物で、料理に使う蓮の根・レンコンは、「生は熱を鎮め、血液を浄化し、瘀血(古血の滞り)を除く。また、止血効果が高く、鼻血、吐血、咯血、痔出血を止める。煮て食べれば、脾胃を健やかにし、美肌をつくる」……などの効能があります。また、蓮の実はイライラ、不眠、胃腸病、慢性下痢、遺精、帯下、子宮出血などに効能があります。

新レンコンが出回るのは7月ごろ、さっと茹でて甘酢に漬けた「酢ばす」は、シャキシャキと歯ざわりもよく食欲を増してくれます。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

- ◎ 特選
- ◎ 竹林の風あらたまり春近し
- ◎ 入選
- ◎ 涅槃西風稚魚がきらりと光りけり
- ◎ 寝入りばな路地より恋の猫のこゑ
- ◎ 天ぷらはツクシとヨモギフキノトウ
- ◎ 羊鳴く上総牧場風ひかる
- ◎ 猫の恋ことしも実りなく過ぎて
- ◎ 先頭の子が「タンポポ」と指さして
- ◎ ぶら下がる絵馬の重なり春の雨
- ◎ はこべらに紙飛行機がのつてゐる
- ◎ 孫が来て麻雀をする春炬燵

◎ 選者 詠

○ 岸暮れて川暮れてゆく諸葛菜

大崎 紀夫

○ フンポイントアドバイス

一句の中に季語が二つ以上ある、いわゆる「季重なり」を駄目だという俳人は、いまもかなりいますが、芭蕉であれ蕪村であれ、子規であれ虚子であれ、高名な俳人は結構季重なる句を詠んでいます。要は異和感がなく、季節感がよく出ていなければならない、とわたしは考えています。今回の矢川さんの句には、土筆、蓬、露の蓋の三つの季語が入っていますが、この三つがあつて春の天ぶらの感じがよく出ているのだ、と思います。

投句募集

今回は「夏の季語」で自由にお詠み下さい。7月1日(土)締切り、9月発送の「秋彼岸号」にて発表致します。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436(青山文化村)
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

増上寺御忌大会 団体参拝、たくさんのご参拝・ ご支援を賜りありがとうございました。

当日はお天気にも恵まれ、多くの檀信徒の皆様にご参拝頂き、
中島住職が唱導師を勤めます日中法要を見届けて頂きました。
親子三代、増上寺御忌大会唱導師という大役を無事勤めることができましたこと、
これもひとえに檀信徒の皆様のご尽力のおかげと厚く御礼申し上げます。



灌頂洒水かんじょうしゃすい(阿弥陀様の知恵の水を頭上に頂き、
お子様の無事成長をお祈りする作法)終了後
のお稚児さん。笑顔がとてもかわいいですね!お子様
達も良い思い出になったのではないのでしょうか。



皆さん、お稚児さんの衣装がとても似合っ
ています。少し緊張気味でしょうか、増上寺
の大殿の荘厳さにビックリしているのかも
しれません。



団体参拝の最後は増上寺89世小澤憲珠台下、
中島住職と一緒に記念撮影。法要後の晴れ
やかな気分で和気あいあいとした雰囲気で
した。

行事予定

開山忌法要・能楽奉納

6月10日(土)

法要 午後3時～ 本堂
能楽 午後4時～ 祖師堂
(演目:半能「鞍馬天狗」予定
出演者:橋本忠樹 他)

第83回 念仏と法話の会

6月15日(木)

午後1時～(受付開始 午後0時30分)
観音堂
法話:死を見つめていのちを学ぶ
講師:東京教区 浄心寺住職
佐藤雅彦 上人

※参加費無料です。お申込はメール・
お電話・FAX・梅窓院受付にて承っ
ております。詳しくは梅窓院ホーム
ページをご覧ください。
お申込みはこちらから。

念法会申込フォーム▶



盂蘭盆会法要

7月13日(木)

法要 午前10時30分～ 祖師堂
※詳細は3面をご覧ください。

梅窓院からのお知らせ

「2022年度アーユス特別功労賞」を受賞しました!

中島住職がアーユス(宗派を超え、仏
教僧侶が集まり国際協力を行っている
NGO団体)より2022年度アーユス特
別功労賞を受賞しました。

アーユス設立時に浄土宗東京教区青
年会メンバーとして、茂田初代理事長
を支え、設立後は様々な場面で、アー
ユスの理念や活動の普及・啓発に長さ
にわたり携わってきたことが今回の受
賞に繋がりました。

3月16日(木)神谷町にある光明寺で
行われました授賞式の様子が
YouTubeにて公開されております。ま
た、アーユス公式ホームページに受賞
メッセージが掲載されておりますので、
是非ご覧下さい。



こちらよりYouTubeで
公開されている2022年
度アーユス賞授賞式の
様子がご覧頂けます。



こちらより受賞
メッセージをご覧
頂けます。

発 行 / 梅窓院
発 行 日 / 令和5年6月1日
発 行 人 / 中島 真成
編 集 / 青山文化村
住 所 / 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38

電 話 / 03-3404-8447
F A X / 03-3404-8107
ホームページ / <https://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail / jodo@baisouin.or.jp
題 字 / 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡